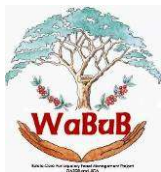


WaBuB PFM News

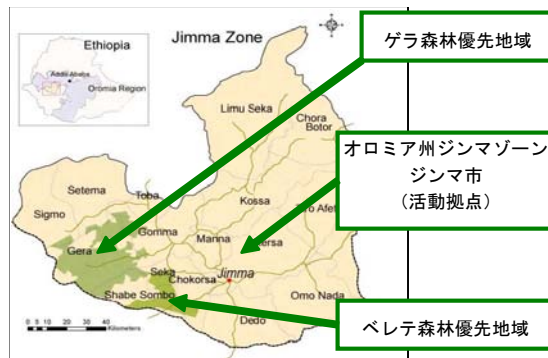
~Respect Local People's Knowledge for Sustainable Forest Management~



JICA 技術協力プロジェクト

エチオピア ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2

2007年7月15日発行 (第8号)



降り続ける雨…

前号の「ベレテ・ゲラにおける気候の特徴」でご紹介しましたように、ジンマ近郊は現在、約 8 ヶ月も続く雨期の真只中にあります。ほぼ毎日のように雨が降り、道は泥だらけです。特に森林地域は道路の整備がなされておらず、雨でひどくぬかるんでいる上に浸食が進み、車でのアクセスに致命的な影響を及ぼしています。住民は何事もないように町まで何時間も歩いたり、馬を使って移動していますが、17 万ヘクタールもの森林地域を対象とするプロジェクト活動には死活問題です。雨期だからといって活動を止めるわけにはいかず、この中でどのようにモニタリングや人員配置などの体制を整備して今後の WaBuB 普及活動を行っていくのか、今日も降り続ける雨を眺めながら策を練っています。

ベレテ・ゲラ NOW ~WaBuB を始めよう! ③

前号まで主に WaBuB を組織する準備段階として、準備委員の設立や境界線の設定について見てきました。今回はいよいよ WaBuB が組織され、森林管理のルール(契約)を策定していく過程についてご紹介します。

ステップ8: 森林利用者の登録

ステップ7で確認した集落の森林境界に基づき、境界内の森林を利用する人たちの登録を行います。利用者には住民だけでなく、ある時期にコーヒーの収穫などで森へやってくる季節利用者も含まれます。これら森林利用者が、WaBuB のメンバーということになります。WaBuB 準備委員会が中心となって登録の呼びかけやポスターなどの準備を行い、登録においては WaBuB リーフレットを配って簡単な説明をし、合意した住民から登録料を徴収します。この登録料は、代表委員の日当等、WaBuB の組織運営経費として使われます。

ステップ9: 第1回 WaBuB 全体会議

登録された森林利用者に対し、WaBuB の活動について説明をします。住民に対しては、ステップ5(集落住民との会合)ですでに協議がなされているので、ここでは主に季節利用者を対象とします。活動について理解を得た後、季節利用者からも WaBuB 準備委員を選出し、住民の代表と一緒に今後の手続きを進めていきます。



ステップ10: 森林管理仮契約の作成

WaBuB のメンバーは、森林管理組合を組織し、森林を適切に管理することにより、法的には州の所有であるベレテ・ゲラの森に居住し、利用する権利が認められます。WaBuB メンバーがどのように森を管理するのか、そのルールを文書で記載したものが「森林管理契約」です。WaBuB 組織化のプロセスの中では最も時間が

かかり、この契約作りに約3ヶ月程度を要します(WaBuB が正式に設立されるまでには約1年はかかると想定しています)。



まず WaBuB 準備委員会と普及員が協議を重ね、「Wadessa の木が減っているから、特に重点的に守ろう!」「家の改築が必要な時には、どうやって木材を入手するんじゃ?」といったような、森林利用の現状や管理における重要事項・不明確な点を挙げます。この協議の内容を基に、普及員と郡の森林官が契約案を作成します。WaBuB 準備委員会からのコメントを受けて改訂した後、ジンマゾーンやオロミア州政府の担当者からも意見を聞き、再度、契約案を改訂します。

改訂された森林管理仮契約の案を基に、第2回 WaBuB 全体会議を実施します。ここでは WaBuB メンバーと契約案の内容について1つ1つ話し合い、メンバー間で合意していきます。同時に WaBuB 準備委員会は解散し、WaBuB のこれからの活動を代表して取り仕切る WaBuB 代表委員会(Executive Committee)を選出します。代表委員会が中心となり、いよいよ最終ステップとなる仮契約締結の準備を行います。

ステップ11: 森林管理仮契約の締結

関係者間で合意された「森林管理仮契約」に、WaBuB の代表者(代表委員会の議長)と政府の代表者(郡農業・村落開発事務所長)が調印します。仮契約の締結によって、WaBuB が正式な森林管理組合として位置づけられます。

締結後、WaBuB が責任を持って森を管理し、定期的に普及員や郡の森林官がサポートしながらモニタリング活動などを行います。この1年間の試行期間中に、仮契約の内容について確認・改訂し、1年後に「本」契約を締結することになります。



これまで3号にわたって WaBuB 結成の過程を見てきましたが、ここからが本当のスタートです。如何に住民が WaBuB を通して住民組織の能力を高め、持続的かつ自立的に森林管理を実施していけるような仕組みを築いていくのか、今後の号の中でご紹介していきたいと思ひます。

ベレテ・ゲラ森林の価値

森林の価値はモノの価値と同じように、見る人、訪れる人、使う人、仕事をしている人、森の中に住んでいる人それぞれ異なり、絶対的な価値観は無いと思います。しかし、このプロジェクトが対象としているベレテ・ゲラ森林優先地域の森は「森林コーヒー」の存在が様々な人の価値を束ねる役割をしているのではないかとこのプロジェクトの仕事の手伝いをして始めて感じています。

日本の街角で売られているコーヒーの原産地はエチオピアということは知っていましたが、その原産地の中でも我々が仕事をしているベレテ・ゲラ森林優先地域からほど遠くないアガロという場所が、コーヒーの生誕地(さまざまな説はありますが)であるということは、こちらに来て初めて知りました。

本来のコーヒーは低木で、その成長には高木による日陰が必要です。現在、我々が口にしているコーヒーの殆どは農園で栽培され、それも日陰を必要としないコーヒー(改良種)による栽培が主流となっています。しかし、ここに来て驚いたのは、天然林の中に天然のコーヒーが点在し、昔ながらに住民がコーヒー豆を採集し、生計を立てているということでした。このコーヒーと住民の関わりは何百年も続き、今も昔と同じコーヒーを我々は口にしています。コーヒーと森の関わりの中で、森林は住民によって管理され、植生自体も住民の手によって自然が作る本来とは異なる姿に変遷されてきていると思われまます。以前はアガロとベレテ・ゲラ森林優先地域の森林が続いていたことを念頭に考えれば、残っているコーヒーの木は古来から続く種である可能性が高く、ベレテ・ゲラ森林優先地域のコーヒーは遺伝資源としても非常に特別な意味を持っていると思っています。また、エチオピアでは古来から続く森林コーヒーを採種出来る場所は年々少なくなり、森林面積が 11%のこの国においてベレテ・ゲラ森林優先地域の希少性は非常に高いと推定されます。

日本では白神山地と知床国立公園が世界遺産として認定されていますが、コーヒーの原産地としての歴史や、天然の森林コーヒーの希少性、そしてその森林を守り、それと共に生きてきた人々の生活と文化を考えると、ベレテ・ゲラ森林優先地域の森林は世界遺産として残しても良いような自然遺産であると思います。また、この森には大型ほ乳類を含む野生動物豊かな自然が残されていますが、人口増加による農牧地の拡大、増加する人口を吸収出来る産業基盤の欠落などから、年々その面積は減少してきています。

様々な要因からベレテ・ゲラの森林が持つ価値は、日々の食糧・短期収入不足に悩む、そこへ住む農民の実感として沸いてこないのかもしれませんが、しかし、森林コーヒーがあったからこそ、この森が残されてきたことを考えると、古代と繋がっている森林コーヒーを軸に、全ての関係者が同じ価値観を持つような行動が必要と感じています。

(短期専門家 萩原雄行:国連食糧農業機関所属)

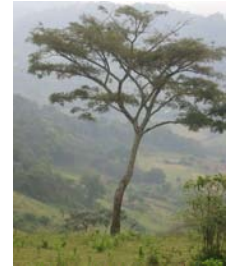
8月中旬までの主な活動予定:

7/16:ケニア第三国専門家(Farmer Field Schoolトレーニング)赴任
7/23-8/31:普及員を対象としたFFSファンリテーション研修
8/1-5:森林コーヒーの認証に向けたInternal Control System研修

ベレテ・ゲラの有用樹種

Ambabessa (*Albizia gummifera*)

ベレテ・ゲラの代表的な林産物といえばコーヒーですが、その被陰樹(品種もよりますが、アラビカ種のようなコーヒーの栽培には、適度の日陰をもたらす高木が必要とされています)としてよく使われているのがアンバベッサ(Ambabessa オロミア語の呼称)です。枝を広く伸ばすのが特徴で、コーヒーだけでなく農地に木陰をもたらす、適度に枝を払って薪などにも利用されています。皆さんおなじみの、WaBuB ロゴのデザインとして使用されているのも、このアンバベッサです。



オロミア州の法規では「樹木を切って、コーヒーやチャット(第7号参照)、農作物を栽培することは禁止」されています(他の木を伐採せず、自然に生えているコーヒーの木から挿し木するような伝統的利用はOK)。しかし、コーヒーの場合には被陰樹を必要とするためにアンバベッサのような高木も残り、森林の形態を維持していることから、「完全に農地化してしまうよりは、コーヒー栽培を推進してもいいのでは…」という意見もあります。実際に WaBuB のメンバーからも「森の中での、新たなコーヒーの栽培を認めて欲しい」という声があがりますが法規に背くわけにもいかず、「保全」と「利用」をめぐる攻防が果てることはなさそうです。

「WaBuB 第3号」の誕生も間近です ～サバカ・ダビエ村メティ集落

ベレテ森林内サバカ・ダビエ村のメティ集落(ジガ: 3~5つの小集落を含む)は、4つの小集落(シャネ: 世帯数 30~50 戸前後で構成)から形成されています。その中の一つの集落が、皆さんもご存知の、フェーズ1で WaBuB が組織化されたチャフェ小集落です。プロジェクトでは、残り3つの小集落をまとめて、一つの WaBuB として組織化する活動を進めており、本号1ページ目でご紹介した WaBuB 組織化の「ステップ10」まで完了しています。6月29日にメティ集落の住民全体会議を開き、森林管理仮契約の内容にも合意を得ました。また、7月7~9日の3日間で境界確定作業を行い(WaBuB PFM News 7号参照)、今は、メンバーリストの精査、境界の細部確認等を行っています。月末に予定されているオロミア州政府との協議を経て、森林管理仮契約に調印する運びとなります。

WaBuB メティでは、その後1年間の試行期間を経た後、フェーズ1で既に組織化されている WaBuB チャフェを統合し、メティ集落を形成する4つの小集落全てをメンバーとする「新 WaBuB メティ」へ移行する計画です。WaBuB PFM News 6号でもご紹介しましたように、WaBuB は「集落」を基本的な構成単位としており、メティ集落では、隣接する森を4つの小集落が共同で利用・管理しています。このためメティ集落で1つの WaBuB を組織化することは、「住民による森林の共同管理」といった視点からとても大切なことです。

発行元:ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2 ニュースレターやプロジェクトへのご意見・ご感想もお待ちいたしております。

E-mail: belete-gera@ethionet.et (担当:西村、吉倉)

URL: <http://project.jica.go.jp/ethiopia/0604584/>